

JICA 海外協力隊連携派遣報告書

鹿屋体育大学国際交流センター

記入日	2025 年 3 月 31 日		
氏名	岡野佐弥香	学年	3 年
派遣期間・派遣先について			
派遣国	ペルー共和国	派遣期間	2025 年 2 月 17 日～3 月 16 日
主な滞在地	リマ	配属先	ペルー日系人協会（Asociación Peruano Japonesa: APJ）

① 活動の概要（主にどのような場所で、どのような活動を行ったか）を記載してください。

日系人協会の地下にある柔道場を中心にリマ市内の道場 4 ヶ所で活動を行った。

柔道の技術指導、柔の形の指導に重点を置き取り組んだ。技術指導では私が得意とする複数種の足技、投げ技、寝技の返し方などに加え、普段行う組み手、組み方、足の運び方などの指導も行なった。取り組み具合に個人差はあったものの、全体的に非常に積極的に取り組んでいた。得意技の指導では、指導を行なった後の乱取り稽古にて、その技を使用している場面が幾度か見受けられた。実践で使うことができるまで時間を要すると予想していたが、非常に早く習得していた。また、乱取り稽古にて投げた技、使っていた技の説明を求められることもあった。向上心の高い人ばかりで、指導する機会を多くもらうことができた。

柔の形の指導では、男性 2 名を対象とし指導を行なった。結論として、完璧な完成度とはいえないものの、第 3 教までであるすべての技の指導が達成できた。一教ずつ区切って、4 回に分けて指導を行なった。

② 各活動場所で実際に感じたニーズ（活動場所で実際に自分たちに求められた活動内容）を教えてください。

配属先では、我々の得意技の技術指導や技の掛け方入り方、組み手の使い方から足の運び方など、基礎から応用までの技術指導が多く求められた。実際に私は自身の得意とする足技から捨て身技、寝技の技術を指導した。また、実践稽古である乱取りの中で使った技の指導を求められることも多々あった。指導者は基礎に興味を持っていたが、生徒たちは技に興味を示していたように思える。それぞれ知りたい技や技術が異なっていたが、どちらの人員もとても意欲的であった。

③ 約 1 か月間滞在したペルー国の印象、生活について気づいたことを教えてください。

ペルーに滞在して感じた印象として、まず強く残っているのは「とても自由な国だ」ということ。特に、働き方や柔道の稽古への参加形態にその自由さが表れていると感じた。仕事においても稽古においても、個人のスタイルやペースを尊重する文化があり、それぞれが自分に合った方法で取り組んでいる様子が印象的だった。また、街を歩いていて感じたのは、自動車の多さと人々のマイペースさだ。車の通行量は多くクラクションが鳴り響いていた。お互いに譲り合いながら進んでいく様子は見られず、全体的に忙しい雰囲気があった。食事の面でも驚きがあり、どの料理もボリュームがあり、一食の満足感が非常に高かった。味付けも日本とは異なり、香辛料や素材の味を活かした料理が多かった。そして何よりも印象的だったのは、現地の人々のフレンドリーさである。言葉がうまく通じない場面でも笑顔で接してくれたり、気さくに話しかけてくれたりと、人との関わりがとても温かく、毎日が新鮮で楽しいものだった。全体を通して、ペルーは自由で心地よく、人の温かさを感じられる国だと実感した。

④ ペルー共和国での活動で、特に強く印象に残ったことを教えてください。

活動の中で特に印象に残っているのは、生徒と先生との距離感の近さだった。日本では、先生が指導する側で、生徒はそれを受け入れる側という関係が一般的で、自分の経験でも生徒が先生に意見を伝えるような場面はあまり見たことがなかった。でも、ペルーでは全く違っていた。生徒たちは遠慮なく自分の考えを述べ、先生もそれを対等な立場で受け止めていた。ただ教えるというよりも、対話を通してお互いに理解を深めているような雰囲気があり、驚きと同時に新鮮さを感じた。特に柔道の稽古中でもその姿勢はよく表れていた。生徒が「この技はこうやったほうがやりやすいと思う」と自分の意見をしっかり伝え、それに対して先生がうなずきながら意見を返す場面を見た。単に技術を教える・教わるという関係ではなく、一緒に考えていく、一緒に成長していくという空気があった。この経験を通して、自分の中にあった「先生＝絶対」という固定観念が大きく揺らぎ、もっとフラットな関係性の中で学ぶことの大切さを実感した。

⑤ 出発準備、出発・乗り換え・入国の過程、現地到着オリエンテーションについて、共有すべきことがあれば教えてください。

当初、持ち物にスーツとあったが不要であった。

虫除けスプレー等に関しても使用することがあまりなかった。

⑥ 今後、短期隊員を希望している学生へのメッセージや、次年度の活動に引き継ぎたい注意事項等がありましたら、記載してください。

本派遣を通じて非常に有意義な経験ができた。

自身の価値観や固定概念が覆されるようなことが多く起こった。派遣先の人員もとてもあたたかく迎え入れて、とてもいい環境であった。知らない土地へ行くのはとても不安要素が多く、学生2人では心許ないかもしれないが、あまり心配せずにフランクな気持ちで参加してほしいと思う。

⑦ 今後の学生の派遣に向けて、事前・活動中のサポート体制で改善をした方がよい点を教えてください。

準備段階でも活動中においてもサポート体制が整っていたと思う。

JICA 海外協力隊連携派遣報告書

鹿屋体育大学国際交流センター

記入日	2025 年 3 月 20 日		
氏名	原田菜々子	学年	3 年
派遣期間・派遣先について			
派遣国	ペルー共和国	派遣期間	2025 年 2 月 17 日～3 月 16 日
主な滞在地	リマ	配属先	ペルー日系人協会（Asociación Peruano Japonesa: APJ）

① 活動の概要（主にどのような場所で、どのような活動を行ったか）を記載してください。

私は、ペルー共和国の首都リマにあるペルー日系人協会（APJ_Asociación Peruano Japonesa）に所属し、柔道隊員として活動した。今回の短期派遣では、4 つの道場、ペルー日系人協会、ラ・ウニオン総合運動場（AELU_Asociacion Estadio La Union）、浦田道場、ペルー柔道連盟（Federacion Deportiva Peruana de JUDO）を対象として巡回指導を行った。柔道の指導では、立技・組み手・寝技の技術指導を行った。技術指導の他には、柔道の 4 段に昇段するために必要である柔の形の習得をしたいという声に応え、柔の形の指導を行った。また、日本人学校や日系人学校で柔道の授業をしたり、柔道体験をさせたりもした。柔道の活動以外には、JICA の隊員が活動している場所に行って、どのような活動をしているのか説明を聞いたり体験をさせてもらった。

② 各活動場所で実際に感じたニーズ（活動場所で実際に自分たちに求められた活動内容）を教えてください。

一緒に練習する中で、「使っている技、組み手、動き方、形を教えて欲しい」など、先生方や生徒から意見をもらって、その内容についての指導を行った。また、ウォーミングアップや丸一日の活動の内容などを自分たちで決めて、仕切って自由に進めてくださいと言われることもあった。

③ 約 1 か月間滞在したペルー国の印象、生活について気づいたことを教えてください。

ペルーの人たちは、とても親切であり、礼儀を重んじるなど武道の精神を大切にされていて、日本人や日本の文化をととても大切にしてくれていると感じた。柔道の練習の時も、数字を日本語で数えたり、練習終わりに柔道の技や歴史についてのクイズを先生が出して子どもたちが答える時間があるなど、柔道を正しく伝えたいという意図が感じられた。柔道の練習に励む生徒たちの姿も、一生懸命で、私たち日本人に練習をお願いしますと積極的に来てくれたり、教えて欲しい技があると言ってくるなど、ペルーの人たちは積極的に日本の柔道を学ぶ姿勢が見られた。柔道以外の生活では、私は日本人ですというと、こんにちは、ありがとう、などの言葉をかけてくれるなど、非常に日本人に優しい国であると感じた。最終日には、たくさんのプレゼントや感謝の言葉をいただいた。交通の面では、危険だと思う点もあったが、自分で気をつけていれば問題なく安全に過ごすことができ、治安も悪くはないと感じた。

④ ペルー共和国での活動で、特に強く印象に残ったことを教えてください。

私は柔道隊員としてペルーで活動をして、特に印象に残ったことは、先生方が熱量や向上心など柔道に対する熱い思いを持っていると感じたことだ。先生方と直接乱取りをした時、どの先生も高度な技術をもっており、非常にレベルが高いと感じた。しかし強くても、柔道をもっと知りたい・学びたいという意欲を持っており、柔道家として見習いたいと感じた。その想いに応えるために、これまで以上に、柔道について考える時間取ったり、初心に戻って基礎の部分から見直したりするなど、もう一度柔道について見つめ直す、非常に良い時間を作ることができた。ペルーでの活動で今まで以上に柔道のことを考えだし、先生方の熱量に負けない熱量で応えようと思い、非常に濃い時間を過ごすことができたと感じた。

⑤ 出発準備、出発・乗り換え・入国の過程、現地到着オリエンテーションについて、共有すべきことがあれば教えてください。

柔道着は3着か4着あるといい。近くにスーパーがあるため、必要なものは現地で揃う。乗換・入国は時間に余裕を持っていけば問題なく行くことが出来る。入国審査については、トランジットの英語で会話する場面は困らないと思うが、ペルーに入国する際はスペイン語で質問されるので、入国審査のためのスペイン語を覚えておいた方がいい。

⑥ 今後、短期隊員を希望している学生へのメッセージや、次年度の活動に引き継ぎたい注意事項等がありましたら、記載してください。

短期派遣ということもあり、1ヶ月間、スケジュールが詰まっており、丸一日休息が取れる日はないので、普段の練習から体力をしっかりとつけてからペルーに行って欲しいと思う。また、怪我をしたり、体調を崩してしまうと活動ができなくなるので、体づくりや日頃からの体調管理をしておいてほしい。次年度も活動先のニーズに応えながら、技や形の指導に取り組んでほしい。

⑦ 今後の学生の派遣に向けて、事前・活動中のサポート体制で改善をした方がよい点を教えてください。

サポート体制については問題ないと思う。怪我をした時はすぐに対応してくださり、常にJICAの方と連絡が取れる体制であったので安心して活動できた。